

# 子ども服のJIS規格普及啓発セミナー

## ワークショップメモ NACS 2014年1月25日

グループ人数 1G:9名 2G:8名 3G:9名 4G:7名 5G:9名 6G:6名 7G:9名  
合計:57名

### 1. 発表の感想

グループ	感想・意見
1G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物の提示は説得力がある。</li> <li>・子どものフードがひっかかったことはあるが、事故になるとは思わなかった。</li> <li>・知らないことを知ったという気持ち(若い男性)</li> <li>・男の子はフードを引っ張り合って遊んで楽しかった、できなくなるのは残念。</li> <li>・ズボンのヒモがひっかかって子どもが転んだ経験を思い出した。子どもが危ないときに、フードをひっぱって制止してきた。フードは便利。</li> </ul>
2G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「そんなこと気にしなくていい」と言われると、いいと感じてしまう。</li> <li>・状況を説明すること。</li> <li>・フードに代わる安全なものがあればいい。</li> <li>・フードはなるべく着せていないが、フード付きのものが多い。保育園の先生に相談したところ、フードを中に折りこむと指導された。一年前にTV等の報道があった時は、皆フード付きを着せなかったが、今は忘れられていて、フード付きの服を着て滑り台で遊んでいる。それを見て危ないと思う時がある。(2歳の子を持つ母親)</li> </ul>
3G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の事例があってよかった その危険をどうすれば回避できるかまで知りたい。</li> <li>・発表中の、危険性回避のためにフードを巻き込むのは、子供が暑がるからあまり勧められないのでかけあいだとわかりやすくよかった。</li> <li>→経産省から、今後ぜひ協力お願いしますとのこと。</li> <li>・「ボタンの危険性」は臍に落ちない。ボタンはいつかは落ちるのに、誤嚥の危険性とは？</li> <li>→糸足に糸を巻き付ける縫付け方で落ちる頻度を減らせられれば、危険性は減少する。</li> <li>・姪がいるので関心はあるがこういうことを知る機会はなかなかない。</li> <li>・この時期子ども服はフード付きしか見つからない。</li> <li>・アパレル業者(中小)は基準を求めている。</li> <li>・安全の配慮をどう伝えるかが大事(事象だけでなく、基準の意味を伝える)。</li> <li>・ひもよりフードが危ないと感じた。</li> <li>・実物を見せて啓発は効果的。事故の事例を見せると分かりやすい。</li> <li>・怪我をするけど可愛いから着せる。という親も現実にはいる。</li> <li>・小学生は高学年になると自分で服を選ぶ。</li> </ul>
4G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカのヒモの事故は知っていた。フードつきが多く、マフラーの危険を訴える。</li> <li>・ウエストのヒモは中に入るものが多い。トグルは高学年に多い。</li> <li>・取り組みは分かった。JISの規格化の時期？ヒモの長さ？動いたら？(曖昧)</li> <li>・ゴムヒモが伸びてしまう。どうするのか。</li> <li>・何でも禁止となるとデザインに制約が付き難しい。最低限の安全規格を。</li> <li>・前から内容はある程度知っていた。メーカーとしての表示の仕方に工夫を。</li> <li>・マークは難しい。○×で判断できない表示は一般消費者には難しい。</li> <li>・責任は問えるのか？店頭の販売員の責任は？</li> </ul>
5G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣類の製造メーカーに勤務。安全面を考えていて付属品には注意している。基準は必要。消費者と一緒に考えていければよい。海外の基準を具体的に知りたい。</li> <li>・新潟ではフードが必要なのではないのか→帽子をかぶる。あまり問題視していない。</li> <li>・男の子の洋服はかわいいのがないので、フードは絶対必要という親がいる。</li> <li>・JIS規格は工業規格で消費者のものではなかった。今回、安全に関する規格、消費者の規格が入ったのはよかった。</li> <li>・1つの資料でも、12歳、13歳となっていて基準がバラバラだ。EUが14歳になっているのになぜ準じないのか。先行している基準があるものは、それを尊重してほしい。</li> <li>・EUの年齢の決め方と日本の年齢の決め方は違うのではないか。</li> <li>・霞が関子どもデーのアンケートでひもが好きですかと聞いているが、リボンが好きですかと聞いたら、好きですが多くなると思う。</li> <li>・EUが14歳とした理由が知りたい。</li> </ul>

6G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供服は子供自身が選べないので、安全性については周囲がいかに注意するかが必要。</li> <li>・ネット通販で海外の子供服を購入している。その際、ヒモなどが付いていないことがほとんどで、今日参加して、その理由が分かった。</li> <li>・子供が通っていた保育園では、ヒモに関する注意喚起はされなかった。</li> <li>・危険性の他に、「長く着られる衣類(エコロジー)」という視点も重要。</li> <li>・子供服の危険性に関する様々な問題について、改めて知る機会となった。今後、子供服のことを調べていきたい。</li> <li>・子供服はフリーマーケットで買うことも多い。</li> <li>・幼稚園に入るまで、子供服の危険性に関する情報があまりない。</li> <li>・経産省の見学デーのアンケートによると、ヒモやフードなどについて子供自身が「かわいい」「かっこいい」とか、あまり感じてないことが分かったようだ。大人のファッション要素が子供服に反映されているだけではないのか？</li> <li>・ズボンの裾のヒモは、踏んづけて転倒するなど、大人でも危ないのではないか。</li> <li>・実際に衣類を作っている側に、危険性に関する情報が伝わっていないと感じる。</li> </ul> <p>《まとめ》  少なくとも、グループに参加していた皆さんにとっては、改めてこの問題を考える絶好の機会になったと感じる。セミナーを通じ、有意義な情報がたくさんあった。  本件については、子供がクローズアップされる問題について、大人達がなんとかしなければならぬことに特徴があると思う。そんなふう感じていた中で、「大人でも同じように危ないのではないか」という意見が出た。幅広い層の国民が当事者意識を持てるようにするためには、そのような違った角度での訴え方が必要ではないかと感じた。</p>
7G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JIS規格ができれば、トヨタなどの大きなメーカーならば相応の注意を払う。アパレルメーカーも同じであろう。中小を含めNACSにはメーカー啓発を期待したい。(リーテイル側がその気になれば、契約更新拒否などの規格外商品排除も可能だと思う。)</li> <li>・消費者啓発だけではなく、男性中心の政治家(子供のことは親が見るべきという凝り固まった考えを持っている)や・メーカー(男性や若い子供を持たない若い女性が商品開発していることが多い)の啓発</li> <li>・母子手帳・育児健診などでの注意喚起が有効。</li> <li>・小学校低学年を対象とした親子向け教材を作ってほしい。</li> <li>・最近の若い人たちは危険感知能力が低下してきていると思う。</li> <li>・企業は事故が起こらないと動かないし、ましてはヒヤリハット情報を収集している会社は僅かであるとACAPの講義で聞いたことがある。</li> <li>・子供服の安全化は本来は部品・製造工程が減るから、企業側のコストも減少し、他の工業製品に比べるとハードルが低いはず。</li> </ul>

## 2. 今後の啓発活動について(対象、場所、ツール等)

1G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビCM・駅のポスター・AC(公共広告)</li> <li>・メディアの報道。</li> <li>・大手ブランド業者による宣伝・アピール(安全に配慮するのがブランドの使命)</li> <li>・洗濯絵表示。販売時のタグ・シールなどでの注意喚起。</li> </ul>
3G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対に通過する時点での情報提供が必要。入学案内時の情報提供がよい。</li> <li>・学校が始まってしまってからの子供を通じてのプリントなどは親に伝わらない。</li> <li>・親も二極化して子供の怪我に無関心な親もいるが、その人達にもアピールできるのが入学案内</li> <li>・子供が服を選ぶ年代には子供自身への教育が有効。子供を通じて親を教育できる。</li> <li>・寸劇は有効だがスポット的、セミナーは関心のある人しかこない、学校の先生は忙しい。</li> <li>・ビデオを作って学校に配布するとよい。</li> <li>・安全な服(NACS認定?)だけのショップ(コーナー)があるとよい。</li> <li>・既に規格外れの服を持っている場合の対処方法(改善など)</li> <li>・学校の授業では家庭科でも保健体育でも服の安全はやっていない。</li> <li>・JISの要求事項と推奨事項の説明。</li> </ul>

4G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年少へのセミナーが必要。学生・先生への啓発。</li> <li>・先生やPTAからの発信が良い。</li> <li>・保育園からの発信ではなく、親世代に直接伝えるのがよい。</li> <li>・お母さん方に聞いてほしいが、そういう人こそ来ない。</li> <li>・雑誌に載せる。</li> <li>・様々なところで活動をする。国内のメーカーは企画については守る。</li> <li>・ヒモが駄目となれば、それをクリアするものが出てくるのでなくても大丈夫。</li> <li>・パンフレットを作る。都のパンフはその部分がなぜ注意なのかが不明。</li> <li>・TVの放映。</li> </ul>
5G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園等、NACSが出向く必要がある。</li> <li>・小学校の低学年の先生は聞く機会がないので働きかけるべき。</li> <li>・各学校のPTAは講師を探しているので出前講座としてよいのではないか。</li> <li>・パンフレットを母子手帳と共に配る。</li> <li>・たまごクラブなどの雑誌に載せてもらう。</li> <li>・消費者庁のポータルサイトに掲載。</li> <li>・妊娠中の定期検診時にパンフレットを配布。</li> <li>・保健所、小児科、図書館、スーパーに置いてもらう。</li> <li>・NACSの消費者教育を利用する。</li> <li>・製造者はJIS規格を知らない人が多いので、アパレル関係の展示会で周知できればよい。</li> <li>・東京テキスタイルなどにNACSがブースを出したらどうだろう。</li> <li>・販売員にも啓発が必要。</li> <li>・駅などで配っている「赤ちゃんがいます」というワッペンと共に配る。</li> <li>・生死にかかわる危険性をどう捉えるか。ペーパーだけではダメでインターネット等、画像で見せることが必要。</li> </ul>
6G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシだけでなく、DVDにするなど映像化してくれるとより伝わりやすく、分かりやすい。</li> <li>・幼稚園のお祭りや各消費生活センターの消費生活展などでも、啓発活動に取り組めるのではないか。NACS等が、啓発資料の貸し出しを積極的に行ってほしい。</li> <li>・保育園では啓発活動があったが、小学校ではやっていないと思う。教育現場全般での周知が必要。</li> <li>・母子手帳などに掲載できないだろうか。</li> <li>・最終的に消費者との接点となる売り場で、情報開示することが大事。</li> <li>・検診が生後4カ月から2歳まで4回あるが、その時に誤飲などの話はあるが、服の安全性の話はない。検診時を周知する機会にしてはどうか。</li> <li>・新潟県の発表の中にわかりやすいパンフレットの作成とあったが、もしそれがあれば、そのパンフレットを利用してはどうか。</li> <li>《まとめ》</li> <li>誰に、何を伝えればよいか、案外ははっきりしている問題なのかもしれない。</li> <li>映像化については、全員が賛成していた。</li> </ul>
7G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2歳の孫がいるが、娘は子供を保育園に預けることになって初めて子供服の危険性に気づかされた。そして慌てて服を買いに走った。保育園のしおりにはフード、ヒモ、靴下はダメ、ボタンもダメ。ズボンはウエスト部分がゴムのもの、ズボンの裾には何もついていないもの、とあった。しおりは大事。このようなしおりを作ることはとても大事。</li> <li>・子供服を買うのは親だけではないので、祖母に対する啓発も大事。そして、危険というのは子供だけではなく、高齢者の問題でもある。誰にとっても安全なものを作らなければならない。</li> <li>・自分が子育てをしていたころは実用性重視の服が主流であったが、いつからデザイン優先になったの</li> <li>・事象事例に関しては特に顕著な部分がどうしても目につくがヒヤリハットや企業のお客様相談室に寄せられる数多くの情報を分析することで今後顕著化しそうな危険が見えてくると思う。HAZOP・・・ハザードとその原因を分析する。もし、これがなかったら、これが逆についていたら等いろいろな条件下を考えて検討する。これからはこのような取り組みが必要なのではないか。</li> <li>・私たち消費者は思い込みで服を選んでいるのかもしれない。もっと多くの選択肢が必要。これじゃなきゃ売れないということはないはず。シンプルがカッコいいというようにならなければ。</li> <li>・ユニクロでは取り外しのできるフードつきが売られていた。</li> <li>・ルール作りだけではダメ。</li> <li>・企業は何かないと動かない。企業に対する啓蒙が必要。</li> </ul>

### ① どういうところに働きかけたらいいか？

1G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健センターや母親学級。</li> <li>・自治体の広報を通じて母親学級やママ育講座。母子手帳にチラシをはさむ。</li> <li>・予防接種会場での周知、その他こそだてサロンなど交流の場での周知。</li> <li>・保育所・幼稚園のお便りに掲載する</li> <li>・学校教育。</li> <li>・モード学園などデザイナーを養成している学校等での教育。</li> <li>・デザインか安全性かの選択ではなく、両立させるデザイン教育。</li> <li>・衣類の安全に関する教育を必修とする。</li> </ul>
----	---

2G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健センターや母親学級。</li> <li>・自治体の広報を通じて母親学級やママ育講座で啓発する。母親はそのような知らせは必ず見る(3歳の子を持つ母親)</li> <li>・第一子が生まれた時は保健師が必ず家庭訪問をする。その機会に保健師から教えて貰う。</li> <li>・新聞の家庭欄、祖父母にも知らせるべき(高齢者)</li> <li>・民生委員。ケアプラザや社会福祉協議会でも子ども服のことを広報する。</li> </ul>
----	--

## ② ロールプレイングによる、子育て世代対象の啓発手法について

1G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故事例については 何からの引用か明確にしてほしい。</li> <li>・始める前に 登場人物のプロフィールの説明がほしい。</li> <li>・掛け合いでも実物を提示したほうがよい。</li> <li>・このような啓発手法を初めてみて驚いた。楽しかった。</li> <li>・YOUTUBEに投稿したらどうか。</li> <li>・ヒモのうちゴムの入っているようなものは、ゴムが劣化すると機能性さえ担保できない、長さが結果としてJIS範囲より伸びてしまうこともあるだろう。</li> <li>・そのため、洗濯絵表示にそういう危険性に関する注意は記載しておくべき。</li> <li>・かしまった方法だとひいてしまうのでもいいと思う。しかし大事なポイントは伝える。</li> </ul>
2G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の人の意識はばらばらである。属性により啓発内容も変える。</li> <li>・(パワポの)フードを被った男の子を、もっと具体的に危険性を伝えるように工夫すればいい。</li> <li>・定期的に、衣替えの時(フードの上着がでる時期)に伝える。</li> <li>・ある幼稚園では、傘は危ないので禁止している。代わりに指定のレインコートを着てフードを被る(だから、戸惑う人もいるかもしれない)(2歳の子を持つ母親)</li> <li>・対象別に、様々なパターンをつくとよい。</li> <li>・風化しないように、コンパクトで印象に残るものがいい。</li> <li>・どうしてフードを取り上げているのかを明確にさせて、意識を高める。</li> <li>・親が子どもに教える場面もいいかもしれない。</li> </ul>

## 3.その他

1G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JISの安全規格は使ってもらわないと意味がない。</li> <li>・男の子の衣料選びではデザイン性は重視しない。すぐに成長するので、できるだけ長く着せたいので調節ヒモやタブはあるほうがいい。必要なヒモは残してほしい。</li> <li>・フードはついていることでカジュアルに見える。フードはなくなるのではないのか。</li> </ul>
2G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人のデザインを子ども服にもってきている、親子のペアデザインなどもある。要らないものを子ども服に付けている。使わないならとる。</li> </ul>
3G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父母には、現状では娘(子供の母親)を通じての情報提供になっているのではないのか？ 子供の父方の祖父母からはやや問題のある服が送られてくることもあるが、貰った手前、着せないわけにはいかないと聞く。</li> <li>・理科の実験で火を扱うのに袖口に無頓着だったりするので、そのあたりの教育も必要。</li> <li>・最近ハレ用の服を用意することも少なくなっているので、日常着について注意喚起すれば相当範囲をカバーできるのでは。</li> <li>・かつてはパーカーのフードを襟首に収納できるデザインがあったが、最近殆どない。</li> <li>・服は例えばボンボンが出始めると流通する服が全部ボンボンになり、子供もそれを欲しがらる。ボンボンが流行っていたのは2年ほど前で、今はボンボンはもう見当たらないが、次にまた何か出てくる。</li> <li>・結局、フードや金具も、機能ではなくて見た目、そこをどう考えるかでは。</li> </ul>
4G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供先は、センターやメーカーでいいのか。</li> </ul>